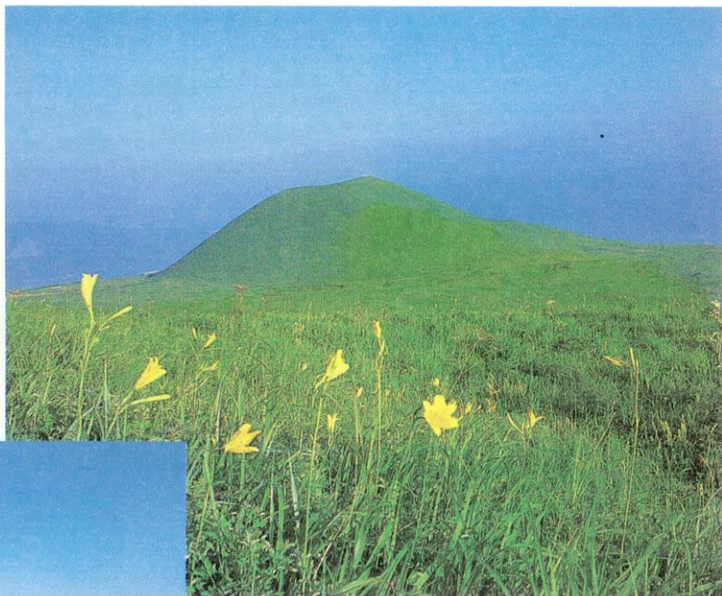
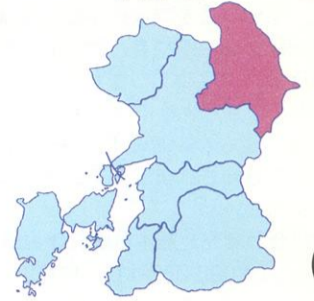


地域の動き

シリーズ④

美しい大草原と荒々しい活火山が出逢う場所 阿蘇地域



米塚とユウスゲ

整備を図っています。具体的には、体験農場やキャンプ場などの農山村リゾート施設、プールやテニスコートといったスポーツ施設などが建設されています。



パラグライダー

阿蘇がますます身近になる

国道57号の拡幅や国道325号のバイパス工事などが進んでいます。また、俵山トンネルも今年度中には工事に入ることになっています。完成すれば熊本市と南阿蘇地域間が現在よりも約二十分の時間

阿蘇地域は、世界一のカルデラや中岳の火口、豊富な温泉や大草原を有するわが国でも有数の観光地です。郡内各地では、個性的な地域づくりが進められ、また、「阿蘇の火まつり」や「阿蘇カルデラスーパーマラソン」といったイベントも開催されるなど、ますます魅力的な地域になっています。国際高原リゾート基地をめざして 阿蘇の恵まれた自然環境や景観に配慮しながら、リゾート施設の

短縮となり、阿蘇がますます皆さんの身近になります。

「原野の子ら」撮影順調



若い女性教師と子どもたちとのふれあいを通じて、「豊かさ」とは何かを阿蘇から世界に

に向けて問いかける映画「原野の子ら」の撮影が順調に進んでいます。監督には中山節夫氏、ヒロインの教師役に熊大教育学部卒の鳥飼美帆さん、子役に阿蘇郡内の子どもたちを起用して、一年にわたって阿蘇の四季を織り交ぜながら撮影が行われています。

昔から原野とともに歩んできた人々の生活が時代の流れとともに変わってゆく様子を通して、日本が経済発展する中で生じた農村問題や家族問題を考えていきます。来年五月には上映開始される予定です。お楽しみに。



「原野の子ら」撮影中の一コマ

くまもと物語

肥後の石橋は語り伝える。人の暮らしを支える技術。

熊本に暮らす人なら誰でも一度は石橋を見て、その優美な姿に感銘を受けたり、どのようにしてアーチを組んだのだろうかと不思議に思ったことがあるでしょう。熊本には全国の四割もの石橋があり、その数は全国一といわれています。なぜこんなに多くの石橋が熊本で建設されたのか、そして、そこにはどんな人と技術が...



熊本各地で見られる石橋ですが、特に宝庫と呼ばれるのは緑川流域で、六十もの石橋が現存しています。この地域は岩石の質が軟性であるため、加工しやすい材料の供給が可能になりました。人々のニーズと材料の供給が備わっていたところから、熊本の石橋は生まれたのです。しかし、ニーズと材料があっただけでは、これほどの石橋ブームは起こらなかったはず。そう、大切なのは優れた

技術者の登場です。

熊本で多くの石橋が架けられたのは、今から約二百年ほど前から幕末にかけてのことです。やがて、この技術は全九州へ、そして、明治維新を迎えた東京へと広がっていきます。そして、その重要な役割を果たしたのが、岩永三五郎や橋本勘五郎などの名人といわれるような棟梁たちや「種山石工」と呼ばれる技術集団だったのです。日本橋や皇居の旧二重橋などは、彼らの仕事で時代に認められたことの何よりの証といえます。

日本最古のアーチ石橋は長崎の眼鏡橋で、一六〇〇年代までさかのぼりますが、中国人技術者たちの施工もしくは指導によるものから、我が国独自の技術として完成させたのは熊本の人々だといえるでしょう。三五郎が手がけた日本最古の水路橋（通潤橋のように水管を通した橋）、砥用町の雄亀（おけだけ）橋は、現在も近隣の田畑を潤しています。

人の暮らしを支える技術。

なぜ、岩永三五郎たちが全国各地から招かれ、多くの優れた石橋を残すことができたのか。それは、彼らの目が人の生活に向けられていたからではないでしょうか。例えば、洪水時の水の流れをよくする水切り石や斜めの壁石など実に細やかな配慮がなされています。だからこそ現代まで私たちの生活を足もとで支えつづけることができたのでしょう。

いつの時代も、どの産業にあっても、めざすのは人の生活の豊かさ。そんな人を想う心があつてこそ、時代の評価はついてくるに違いありません。熊本の石橋に見る肥後のテクノロジー。それは、現代を生きる私たちに、大切な教訓として聞かえてきます。

ゆたかさ多彩 生活創造 くまもと 08 総広 004-2

あて先 0862170 読者の皆さまのご意見をお待ちしています。

「県からのたより」に対するご意見、ご感想をお待ちしています。

1997 世界ハンドボール選手権 in 熊本 平成8年5月17日(土)～6月1日(日)

平成11年開催・第54回国民体育大会 1999 人、光る。くまもと未来国体